

くにざかい

## 国境の村・相州下鶴間から武州鶴間へ 2021. 12. 23

～境川中流のディープな史跡探訪～

酒井 郁子 記

2021 年 12 月 23 日(木) 東急田園都市線 つきみの駅から、この日の探訪は出発！

当初 3 ヶ月前の 9 月に実施予定の企画でしたが、デルタ株の蔓延により延期となり、年の暮れも押し迫るこの日に実施されました。好天にも恵まれ、9 月下旬の猛暑続く初秋よりも歩きやすい気候となり、緩やかな半日コースを 29 名の参加者とともに散策しました。

今回探訪したのは、相模国高座郡下鶴間村の北部地区公所(ぐぞ)から、境川を渡って武蔵国多摩郡鶴間村へ。相模と武蔵の国境となる川を挟んだこの二つの村に残る、歴史の欠片から村人の息吹を感じる旅です。

下鶴間といえば、矢倉沢往還(大山街道)の下鶴間宿が有名ですが、下鶴間村には、公所と宿の二つの集落が村中村のように存在していました。

公所には、浅間神社があり、中世の鶴間郷総鎮守 鶴舞(つるまい)神社であったと云われる由緒ある神社です。この神社をはじめ、江戸時代に境川の氾濫を避け、村人と共に高台の現在地へ移転した国境山定方寺、“南 藤沢道・東 江戸道”と彫られた滝山街道にあった道標など。公所の村人が守り継いだ史跡をまわりました。

後半は、境川を渡りひと時の“むさし探訪”。新しく開発されたお洒落な街には“鶴間”の地名を残す場所もごくわずかですが、古東海道や、鎌倉街道上道などの古道が通っていた、昔からの交通の要所です。河岸段丘で高台になる境川右岸(大和市側)と異なり、左岸(町田市側)はやや広い平坦地に。水害との闘いが、この地の歴史には深く刻まれていたようです。

最後に訪れたのは、境川を渡る水管橋。明治になり急激に開発された横浜の港町へ、相模湖の水源から清涼な水を運んだ日本初の近代水道が通された場所です。公所の村人は、横浜へ水を送る大切さを理解したうえで、水道が通る土地を無償提供したのだとか。明治に造った一直線の鉄製水管橋は、昭和に架け替えられ、太陽を反射する美しい銀色アーチ橋に。昔の人々の厚意を讃えるかのような清々しい景色でした。

ゴールは南町田グランベリーパーク駅。クリスマスモードたっぷりのショッピングモールに昼頃到着。すっかり様変わりした街の裏側に、境川兩岸の村人たちの生活を感じる探訪でした。



下鶴間村公所の鎮守 浅間神社



境川を渡る横浜水管橋(左3本)